四天王像

観音と並んで台の上に存在するのは、古代インドの神話にルーツを持つ４人の仏教の神々の像です。悪と戦い、仏の教えを守るために超自然的な生物の軍隊を指揮する世界の守護者です。

日本では、彼らは四天王と呼ばれており、四方を守っています。多聞天は北の守護者であり、増長天は南を守護し、広目天は西を、そして、持国天が東を守っています。彫像は、彼らが保護している世界の方角を示すために、台の四隅に配置されています。

演壇の碑文は、1289 年に彫像が彫られ、7 年後に色付けされたことを示しています。素晴らしい職人技と、像の絶妙な色彩と全体的な状態により、2018 年に重要文化財として登録されました。

彫像には、作られた時期を反映した要素も現れています。それぞれ王は、鬼のような怪物を踏みつけており、その勝利のポーズ、そしていうまでもなく彼らの戦いの鎧から、侍も暗示されます。侍は 13 世紀に権力の絶頂にあっただけでなく、この時期に仏教の影響を強く受けつつありました。